

英 語 科・英 語 活 動

英語科・英語活動部 原 雄規 高橋 洋介 関口 桜子

研究協力者 渡部 孝子 上原 景子

I 英語科・英語活動における「社会に変革を起こす子ども」について

相手の反応を基に改善した英語表現や伝え方で考えや気持ちを伝え、相手の英語表現や伝え方を改善する子ども

本校の学校教育目標「つよく ただしく かしく」を具現化した児童の育成のためには、各教科等の学習指導要領を基に、本校の児童の実態を踏まえて捉えた資質・能力を育むことが必要である。英語科・英語活動の問題解決的な学習では、「主体的に英語を用いて他者に配慮しながらコミュニケーションを図る資質・能力」を育むことを目指す。この資質・能力と、英語科・英語活動の問題解決的な学習の過程の具体は、以下のとおりである。

主体的に英語を用いて他者に配慮しながらコミュニケーションを図る資質・能力

(1) 知識及び技能

英語の音声や文字、英語表現、文構造、言語の働きについての知識

コミュニケーションにおける基礎的な技能

(2) 思考力、判断力、表現力等

目的や場面、状況に応じて英語表現の選択・組合せをし、英語を用いて分かりやすく考えや気持ちを伝える力

(3) 学びに向かう力、人間性等

英語を用いて相手に伝わるように工夫しながら、考えや気持ちを伝えようとする態度

<「主体的に英語を用いて他者に配慮しながらコミュニケーションを図る資質・能力」についての三つの柱>

過程	学習活動
つかむ	コミュニケーションを図る目的や場面、状況に対する単元全体の見通しをもつ 英語表現や伝え方に関する単元全体の課題（Unit Goal）をつかむ
追究する	英語表現に対する見通しをもつ ※点線内は単位時間ごとに繰り返し行う 英語表現や伝え方に関する課題をつかむ 英語表現を取り込む 英語表現を用いてコミュニケーションを図る 英語表現をなぞり書きしたり書き写したりする（英語科） 英語表現を用いたコミュニケーションについて振り返りをする
まとめる	単元で学習した英語表現や既習の英語表現を用いてコミュニケーションを図り、単元全体の課題（Unit Goal）の解決をする 課題の解決状況と相手と英語を用いて分かり合えた程度について振り返りをする

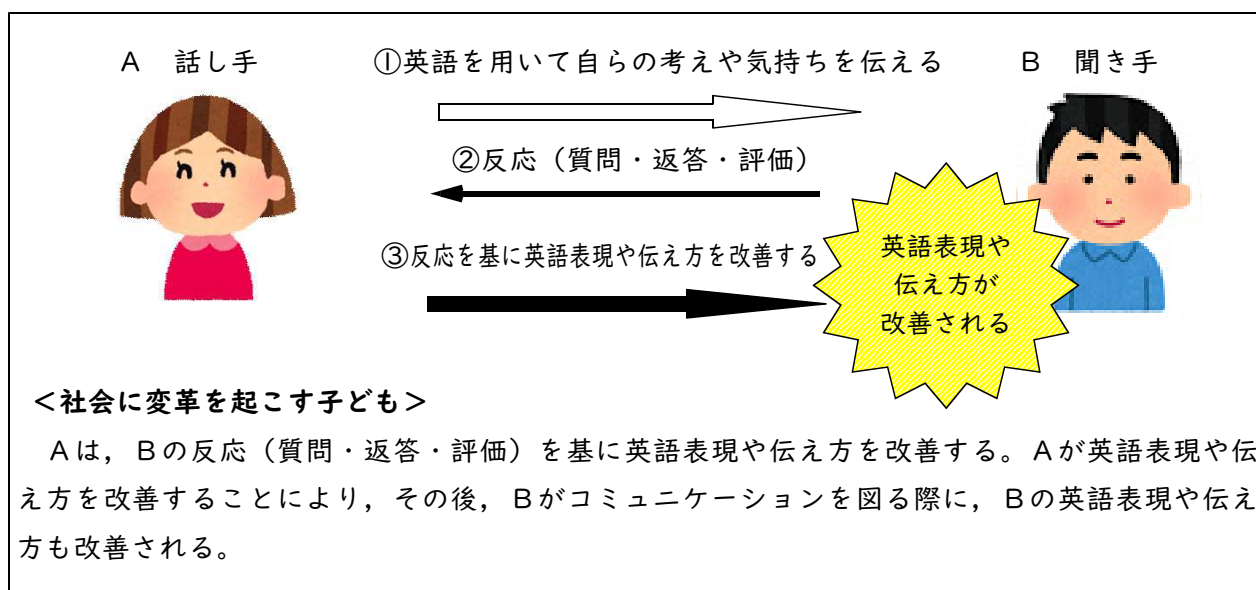
<本校英語科・英語活動の問題解決的な学習の過程>

全体研究を踏まえ、英語科・英語活動における「社会に変革を起こす子ども」を「相手の反応を基に改善した英語表現や伝え方で考えや気持ちを伝え、相手の英語表現や伝え方を改善する子ども」と具体化した。英語科・英語活動の問題解決的な学習において、「つかむ」過程では、教師やALTのモデルを見聞きして分かったことを基に、コミュニケーションを図る目的や場面、状況に対する単元全体の見通しをもち、単元全体の課題（Unit Goal）をつかむ。「追究する」過程では、その単元全体の課題に関わる単位時間ごとの課題を解決することに向けて、コミュニケーションを図ったり、相手の反応（質問・返答・評価）を基に自らのコミュニケーションについて振り返りをしたりする。その際に、自らの考えや気持ちをより相手に分かりやすく伝えるために英語表現や伝え方を改善する。「まとめる」過程では、単元で学習した英語表現や既習の英語表現を用いてコミュニケーションを図り、単元全体の課題（Unit Goal）の解決をする。この問題解決的な学習において、「社会に変革を起こす子ども」の姿は、相手の反応（質問・返答・評価）を基に改善した英語表現や伝え方で考えや気持ちを伝える姿である。本校英語科・英語活動の「改善」とは、以下のいずれかが見られることである。

- ・英語表現が増えること
- ・発話される英語表現が英語の音声やリズム等になること
- ・聞き取りやすい声の大きさや速さで伝えること
- ・相手と目線を合わせて話すこと
- ・ジェスチャーを取り入れること

＜本校英語科・英語活動の「改善」について＞

話し手が英語表現や伝え方を改善することは、聞き手によりモデルを示すこととなる。それを聞いていた聞き手が、英語表現や伝え方を取り込むことで、聞き手の英語表現や伝え方が改善されることになる。このように、英語を用いてコミュニケーションを図る際、話し手と聞き手は、自らの考えや気持ちを伝え合いながら、互いに英語表現や伝え方を改善していく。以下は、「社会に変革を起こす子ども」と伝えられる側の児童の関係を図で示したものである。



＜本校英語科・英語活動の「社会に変革を起こす子ども」と伝えられる側の児童の関係＞

また、本研究で捉えた「相手の反応を基に改善した英語表現や伝え方で考えや気持ちを伝え、相手の英語表現や伝え方を改善する子ども」の姿は資質・能力の三つの柱を相互に関係し合うことを活性化している姿であり、英語科・英語活動の問題解決的な学習の中で、前頁のような姿が現れることを積み重ねることにより、本校英語科・英語活動で捉えた資質・能力を育成することができる。

2 英語科・英語活動における「社会に変革を起こす子ども」の姿が現れるための学習指導の工夫

これまでの本校英語科・英語活動の研究や実践の中で、「相手の反応を基に改善した英語表現や伝え方で考えや気持ちを伝え、相手の英語表現や伝え方を改善する子ども」は、「コミュニケーションを図る目的や場面、状況」「教師やALTがモデルで用いた英語表現や伝え方」「既習及び新出の英語表現や伝え方」「友達が用いた英語表現や伝え方」「英語を用いてコミュニケーションを図った際の相手の反応（質問・返答・評価）」などの情報活用に長けていた。そして、コミュニケーションを図る目的や場面、状況を理解し、既習及び新出の英語表現や伝え方を用いてコミュニケーションを図る中で、相手の反応（質問・返答・評価）を基に自らの英語表現や伝え方を改善することができていた。また、話し手が改善した英語表現や伝え方を取り込むことで、聞き手であった児童の英語表現や伝え方も改善されていた。一方で、新出や既習の英語表現や伝え方を教師やALT、友達からうまく取り込んで伝えることができなかったり、聞き手が自らの反応によって話し手の英語表現や伝え方を改善できるという、反応をすることの価値に対する意識が低かったりしたため、話し手や聞き手に次のような姿も見られた。

- ・話し手が、「教師やALTがモデルで用いた英語表現」「既習及び新出の英語表現」を用いることができない。【情報の収集】
- ・話し手が、「既習及び新出の英語表現や伝え方」を分かりやすく工夫することができない。【情報の吟味】
- ・話し手が、「英語を用いてコミュニケーションを図った際の相手の反応（質問・返答・評価）」を得ることができない。【情報の収集】

そこで、英語科・英語活動の学習の中で「相手の反応を基に改善した英語表現や伝え方で考えや気持ちを伝え、相手の英語表現や伝え方を改善する子ども」の姿が現れるように、「情報の収集」や「情報の吟味」を重視し、学習指導の工夫を行うこととした。

自ら必要に応じて英語表現を確認できる「教師やALTのモデル」動画の用意

「相手の反応を基に改善した英語表現や伝え方で考えや気持ちを伝え、相手の英語表現や伝え方を改善する子ども」の姿が現れるためには、既習及び新出の英語表現を用いて自らの考えや気持ちを伝えることが欠かせない。そこで、相手とコミュニケーションを図る前に、児童が必要に応じて英語表現を確認できる「教師やALTのモデル」動画の用意をする。この学習指導の工夫では、自らの考えや気持ちを伝える際に、必要に応じて児童が英語表現の音声やリズム、イントネーションなどを動画で見て、教師やALTの口の動きを真似しながら発音して取り込む。ロイロノートの児童教師共有フォルダ内に、単元ごとのフォルダを作成し、英語表現の種類ごとに動画を用意する。児童は、共有フ

フォルダ内から伝えたい考えや気持ちに合わせて「教師やA L Tのモデル」動画をロイロノートの個人のノートに取り出して用いる。取り出して用いることで、必要なときに、すぐに英語表現を確認することができる。また、動画を用いることで、相手とコミュニケーションを図る前に、児童が必要に応じて必要な回数、「教師やA L Tのモデル」を確認することができるようにする。



<ロイロノートの児童教師共有フォルダ内の様子>

タブレットを用いて画像を提示しながら、考えや気持ちを伝え合う機会の設定

「相手の反応を基に改善した英語表現や伝え方で考えや気持ちを伝え、相手の英語表現や伝え方を改善する子ども」の姿が現れるためには、分かりやすく伝えるために英語表現や伝え方の工夫をすることが欠かせない。そこで、タブレットを用いて画像を提示しながら、考えや気持ちを伝え合う機会を設定する。この学習指導の工夫では、インターネットで検索し、選択すること、教師が用意した複数の写真の中から選択すること、自ら撮影することのいずれかの方法により自らの考えや気持ちに合った画像を用意し、提示しながら英語表現を用いて伝え合う。タブレットを用いて画像を提示することは、自らの考えや気持ちに合った画像を用いて伝えられるため、分かりやすく伝えるために英語表現や伝え方の工夫をする上で、以下の表に示す効果がある。

	効 果
英語表現	・相手に伝えたい考えや気持ちが増え、英語表現が増える。 ・聞き手に質問されることが増え、話し手の英語表現が増える。
伝え方	・相手に注目して欲しい箇所を指で示しながら考えや気持ちを伝えられる。(ジェスチャーを増やせる。) ・英語表現を感情の入った伝え方で伝えられる。 ・印を付ける、線を描く等、画像を加工して考えや気持ちを伝えられる。 ・伝えたい考えや気持ちに合わせて、画像を拡大できる。

第5学年「すごいで日本！プレゼンテーション」

自ら必要に応じて日本文化の紹介をする英語表現を確認できる教師やA L Tのモデル動画の用意

- ・タブレットに用意された動画を確認し，日本文化の紹介をする英語表現を真似しながら発音して取り込む。

天ぷらの説明は，どうやって言うのだったかな。

We fry vegetables and seafood.



We fry vegetables and seafood.
(動画から流れる音声)

タブレットを用いて日本文化の画像を提示しながら紹介する機会の設定

- ・天ぷら（インターネットで検索し，選択した）の画像を提示しながら日本文化の紹介をする。

②

What *tempura* do you like?

④

Me, too. Nice speed!
Louder, please.

⑤

私も好きな物を加えて伝えてみよう。

⑥

We have *sukiyaki* in Japan. We simmer beef and vegetables. I like beef. It's juicy.



①

We have *tempura* in Japan. We fry vegetables and seafood. It's crispy and delicious.

③

I like shrimp *tempura*.

⑦

Nice. I like *sukiyaki*, too.

タブレットを用いて自らの伝え方について友達からの評価を確認する機会の設定

「相手の反応を基に改善した英語表現や伝え方で考えや気持ちを伝え，相手の英語表現や伝え方を改善する子ども」の姿が現れるためには，自らの伝え方のよさ・改善点に気付くことが欠かせない。そこで，タブレットを用いて自らの伝え方について友達からの評価を確認する機会を設定する。この学習指導の工夫では，「聞き取りやすい声の大きさ」「聞き取りやすい速さ」「アイコンタクト」「ジェスチャー」の伝え方の改善点について，Google Formsを用いてアンケートを作成し，コミュニケーションを図った友達から評価を収集できるようにする。聞き手は，内容の理解，伝え方のよさ・改善点を口頭で伝えた後に，伝え方の改善点についてタブレットを用いて評価を送る。様々な友達から収集した改善点についての評価の割合は，円グラフで表示されるため，円グラフから自らの伝え方のよさ・改善点に気付く，その後のコミュニケーションに生かすことができる。この学習指導の工夫は，「追究する」過程において学級全体でコミュニケーションを図っている途中に，5名程度の相手と英語表現を用いて伝え合い，評価を送り合った後に最初に設定する。その評価を基に自らの伝え方のよさ・改善点に気付く，改善点を意識しながら再度相手を替えて繰り返しコミュニケーションを図ることにより，伝え方を改善することができる。そして，コミュニケーションを図った後に，再度友達からの評価を確認する機会を設定することにより，「まとめる」過程において意識すべき自らの伝え方の改善点に気付くことができる。友達同士で評価をする内容例については次頁の通りである。

質問① どんなことに気を付けると友達の発表がよくなりますか？（複数回答不可）

- A 聞き取りやすい声の大きさ B 聞き取りやすい速さ
C アイコンタクト D ジェスチャー E なし（とても分かりやすかった）

質問② （質問①でAを選択した場合）

- A 声を大きくする B 声を少し大きくする
C 声を少し小さくする D 声を小さくする

質問② （質問①でBを選択した場合）

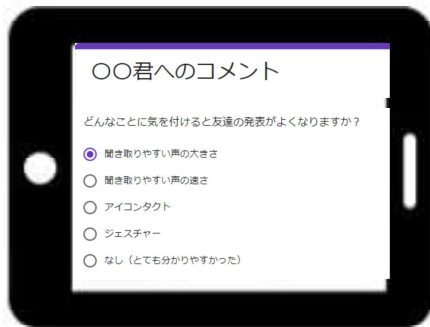
- A 止まらないようにする B 速く話す C 少し速く話す
D 少しゆっくり話す E ゆっくり話す

<友達同士で評価をする内容例>

第4学年「とびっきりセットメニューを紹介しよう」

タブレットを用いてお気に入りのセットメニューを紹介する伝え方について友達からの評価を確認する機会の設定

1. コミュニケーションを図って友達からの評価を収集する。



<Google Forms 評価のアンケート>

②

OK! I like curry and rice, too. Nice volume! More eye contact.

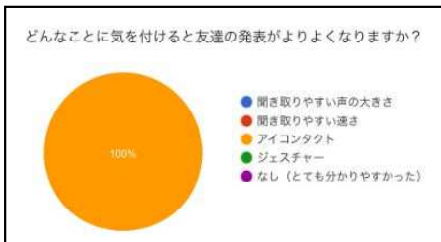
①

This is my set menu, potato salad, curry and rice, orange juice and fruits parfait. I like curry and rice.

お気に入りのセットメニューがよく分かったぞ。もっと目を合わせて話ができるといいと思うな。タブレットで送ってみよう。



2. 友達からの評価を確認し、自らの伝え方のよさ・改善点に気付く。



<評価の確認画面>



声の大きさや速さはよかったけれど、アイコンタクトがまだできていなかったから、次は意識して伝えてみよう。

3. 改善点を意識しながら再度コミュニケーションを図る。

② Good! I like fruits parfait, too. Nice eye contact!

③ ばくもアイコンタクトを意識して伝えてみよう。

④

This is my set menu, seafood and rice, miso soup, apple juice and fruits parfait. I like seafood. (相手を見ながら)



①

This is my set menu, potato salad, curry and rice, orange juice and fruits parfait. I like curry and rice.

⑤

Great! Nice eye contact!

3 成果と課題

本校英語科・英語活動では、「相手の反応を基に改善した英語表現や伝え方で考えや気持ちを伝え、相手の英語表現や伝え方を改善する子ども」の姿が現れるよう、授業における具体の姿や学習指導の工夫について研究を進めてきた。その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

○成果

英語表現を用いて自らの考えや気持ちを伝えた際、相手の反応を得られていた。そして、相手の反応を基に英語表現を増やしたり、聞き取りやすい声の大きさや速さで伝えること、相手と目線を合わせて話すこと等、伝え方を改善したりして伝えていた。また、自らの英語表現や伝え方の不十分さを自覚し、相手の改善した英語表現や伝え方を参考にして取り込むことにより、自らの英語表現を増やしたり、聞き取りやすい声の大きさや速さで話すこと、相手と目線を合わせて話すこと等、伝え方を改善したりして伝えていた。

これらの姿は、英語科・英語活動における、「相手の反応を基に改善した英語表現や伝え方で考えや気持ちを伝え、相手の英語表現や伝え方を改善する子ども」の姿である。これは、姿が現れるための学習指導の工夫により、児童が英語表現や伝え方の工夫をして伝えることができ、相手の反応から、自らの英語表現や伝え方のよさや改善点に気付いて、コミュニケーションに生かすことができたためであると考えられる。

○課題

児童は、自らの反応によって相手の英語表現を改善できることを認識したため、"Do you like ~?"を用いて質問できるようになっている。一方で、"What", "Where", "When"等の疑問詞を用いて質問をすることが難しい児童の姿も見られた。そのため、詳細に伝えるために必要な英語表現に気付き、英語表現を加えて伝えられるように、今後は、Small Talkで既習の英語表現を用いて質問をして答える機会を設定し、その中で学習指導の工夫を行っていきたい。

【参考文献】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』平成30年2月，開隆堂出版。
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語編』平成30年2月，開隆堂出版。
- ・東口 貴彰【著】『小学校英語×ICT「楽しい!」を引き出す活動アイデア60』令和2年9月，明治図書出版株式会社
- ・文部科学省【編著】『初等教育資料』令和元年12月号，東洋館出版社。